

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第97号 2022年12月

発行人：川崎 秀一 編集長：猪名川 一雄 事務局長：吉野 博明
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-22-6 Tel 03-3713-1684
ホームページURL：http:// me96tomon-waseda.la.coocan.jp/

2023年新年会のご案内

2023年新年会は、第一部で軽音楽と落語を楽しみ、場所を変えて第二部で懇親会という二部構成になりました。

第一部の出演は目黒稲門会会員と早稲田大学落語研究会で、新春に相応しい番組構成と演目にしたいと思います。

当会は設立20周年記念として、2020年2月4日から9日の6日間、目黒区美術館区民ギャラリーで会員の美術作品展を開催しましたが、今回はそれに続く音と話芸の催しです。

昨年の新年会はコロナ禍での色々と制約を受けての開催でしたが、来たる会は音楽に痺れ、話しに笑って、福を呼ぶ新春に相応しい会にします。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

その落語研究会からのご挨拶です。

「私たち早稲田大学落語研究会は、1948年に設立された日本最古の落語研究会です。プロの噺家さんをお招きする「鑑賞会」や「わせた寄席」というイベントで大衆芸能である落語を同世代に伝える活動を行っているほか、会員自らも落語を稽古し、早稲田祭や各種イベント、大会等で実演を行っています。現在は大学を問わず30名ほどの会員で活動を行っています。新年を江戸の笑いで盛り上げたいと思います。よろしくお願いします。

早稲田大学落語研究会幹事長
上運天 英蔵



記

1. 日 時：2023年1月15日(日)15時～19時
(受付開始14時30分)

2. 会 場：

・第一部：中目黒 GT プラザホール(15時開始)
東急東横線、東京メトロ日比谷線の中目黒駅南口改札を出て、東口2より徒歩数メートルで中目黒GTに到着します。ホール入口は地下1階のGT広場に面しています。

・第二部：「割烹 おおたる」目黒川店2階
(17時15分開始)

目黒区上目黒1-5-15

第一部終了後、プラザホールより徒歩で移動。駅南側の線路沿いを代官山方面に向かい、橋を渡って直ぐ右側の店。そこの2階です。

3. 新年会の番組構成：

・第一部：会員による軽音楽と初笑いです。

出演者は、澁谷瑠璃、大内久美子、山内宏、松方正彦の皆さんです。

総合プロデュースを世田谷稲門会員でシャンソン歌手の河津延樹氏にお引き受けいただきました。

音楽に続いて、早稲田落研お二人の落語です。

・第二部：居酒屋での料理と飲み物による迎春です。

4. 会費／人：

会 員 ：7千円(一部のみ参加:3千円)

ご家族、友人*：4千円(一部のみ参加：無料)

(*会員同伴)

会費は同封の振込用紙にて2022年12月20日(火)までにお振込ください。当日、受付担当会員も新年会を楽しむ時間を確保するため。会員の皆様のご理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。

5. 同封の返信用はがきを12月20日(火)までにご返送ください。

6. コロナ禍の状況により、プログラムを変更する場合がありますのでご了承をお願いします。

(細谷 記)

各 部 会 か ら の 案 内 ・ 報 告

ウォーキング部会

第150回「玉川上水をあくる第2回」

2022年9月20日（火） 参加 9名

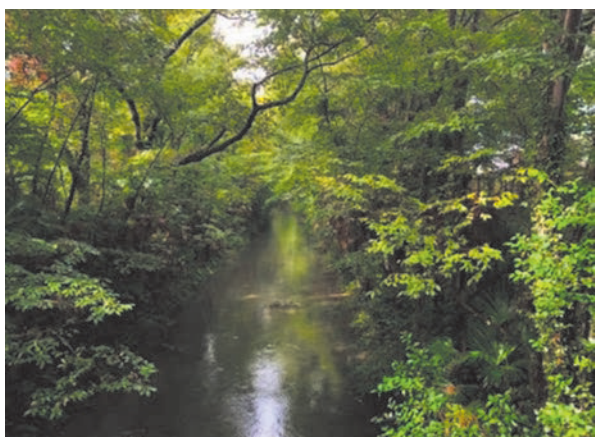
行程:JR 福生駅→福生神明社→加美上水橋→田村酒造場→新橋→清巖院→中福生公園→ほとる公園→牛浜橋→JR 牛浜駅

当日は大型の台風14号の影響で福生駅前のスターバックスで1時間ほど雨宿り後スタートした。駅の西口を出て青梅線に並行する道から松林通りに出て福生神明社へ。神明社は明治七年当時各町会に祀られていた五柱の神々とともに七祭神を合祀した神社で、地域の安らぎを始め治水、産業、学問、衣食住等各方面にわたり功德の高い神社とされる。神明社の脇にある神明児童遊園にはかつての堂川湧水を井戸揚水で復活した清水が流れる。



神明社

西に向かい加美上水橋で玉川上水に出る。



玉川上水

江戸は3代将軍家光のとき参勤交代の制度が確立すると、大名やその家族、家臣が江戸に住むようになり、人口増加に拍車がかかって神田上水など既存の上水だけでは足りなくなり、幕府は多摩川の水を江戸に引き入れる計画を立てた。江戸時代の水道の

記録「上水記」には、工事を請け負った庄右衛門、清右衛門兄弟（後に褒美として玉川の姓を賜る）は羽村取水口から四谷大木戸までの全長約43キロメートル、標高差わずか約92メートルの素掘りの水路を承応2(1653)年4月からわずか8か月で完成したと記述される。加美上水橋から下流に向かい福生かに坂公園を通り宮本橋横から長徳禅寺に立ち寄り、向かいにある「幻の酒 嘉泉」を造る田村酒造場に入る。



長徳禅寺にて



田村酒造場

煉瓦造りの立派な煙突は以前酒米を蒸すために火を焚いていた時の名残り。今は蒸気を使っているので煙突は現役を引退しているとのこと。蔵の見学はできなかったが売店で美酒を求める参加者も。都道165号伊奈福生線を渡り、市街地ではあるが立派な土蔵のある家も散見される中福生通りを経て名利清巖院に至る。境内は本堂のほかに弁天堂や珍しい車地藏、湧水のある日本庭園があり落ち着いたたたずまいを見せるなか、真っ赤な彼岸花が境内の緑に季節らしい彩を添えていた。



清厳院庭園



清厳院の彼岸花

近くの中福生公園は玉川上水の南側、堤防下に沿って作られた水辺の公園で、こちらにも彼岸花の群生が公園のそこかしこに美しく咲いていた。



中福生公園の彼岸花

奥多摩街道からせせらぎ通りに下りほたる公園へ。公園はホタルの棲息を保護する施設で、初夏には「福生はたる祭」が開催されるが今の季節はほたるの静かな寝床の風情。その後、五日市街道から牛浜駅経由立川駅まで戻り一旦解散した。

1976年に第75回芥川賞を受賞した村上龍の「限りなく透明に近いブルー」は横田基地付近に生活する若者の荒廃的な生活を描き、小説の読者のなかにはそれによって「基地のある街 福生」についてのイメージを持った私のような方もいるかもしれない。今回のコースは玉川上水と並行する高低差が少ない道のりを多摩川や遠くに山々を望みながら水の流れと緑の風景をのんびりと楽しむウォーキングとなり、私の持っていた小説世界のイメージとは異なる長閑で穏やかな時間が流れるものであった。

(伊東佳行 記)

俳句部会

第148回 俳句部会報告

日時 2022年10月10日(月)郵送句会

(順不同)

川井素山	南部馬駆くる岬や草紅葉
保井寶正	毬栗や三粒覗いて暮れなずむ
佐久間喬	剥いたとたんに顔を出す栗の虫
丸山酔宵子	蓑虫や家に籠りて足るを知る
吉田啓悟	舟底に川泣く音の夜寒かな
青木英林	蓑虫や巢籠りの日々いつ明ける
山本草風	哲学書懷疑懷疑の老の秋
佐久間たか子	散策に来てどこまでも鰯雲
渡辺鯨波	虚栗踏んで一句をもらひけり
後藤克彦	鰯雲見れば散り散り鱗かな
原 晶如	みの虫に狭さほど良き蓑の家
永井正孝	毬栗を長靴で押さふ栗拾い

中原主宰の選んだ秀句と評

南部馬駆くる岬や草紅葉

下五の草紅葉の斡旋が手慣れている

蓑虫や家に籠りて足るを知る

蓑虫という大抵(家に)籠もるというイメージを思いつく。ここではそれに足るを知るーが加わり新規のものになったか

虚栗踏んで一句をもらひけり

「虚栗」は俳諧撰集の名(宝井其角編)のことを念頭に一句もらったといっているのだ

俳句部会長 佐久間 喬

囲碁部会

昨年より、コロナ禍の下、「呼びかけの碁」と言うネット碁を利用してリーグ戦を行っております。

2022年度上期は、10月8日に全日程を終えて、3ラウンドの通算総合優勝は小岩氏となりました。終始冷静で安定感のある碁がひかりました。2位は大久保氏、保井氏、小倉氏の実力者3氏が分け合いました。なお下期のリーグ戦は11月より開催する予定です。

さて、現在このリーグ戦をより面白くする為、目黒稲門会会員以外の方も参加していただき、リーグ戦を盛り上げようと考えています。誰か皆様のお知り合いの方で推薦できる方がおられましたら、ご紹介下さい。その方が早稲田卒であることは問いませんが、早稲田卒であればなお良し、と考えています。

また他地区の稲門会とのコラボも可能であれば、推進したいと考えています。

囲碁部会長 市川 亘

ゴルフ部会

11月1日(火)に秋のゴルフ部会を神奈川県中井町のレインボーカントリー倶楽部で開催しました。参加者9名とやや少なめでしたが、さわやかな気候のもとプレーを楽しみました。

新ベリア方式のハンデで、優勝は泉 実紀子さん、2位は吉野博明さん、3位は猪名川でした。

プレー終了後、JR 二宮駅前の「大磯漁港直送 和の店すぎ田」で表彰式と懇親会をおこないました。地魚を肴にお酒と話がすすみました。(猪名川一雄 記)



第2回新そば会 11月4日



第3回新そば会 11月8日

食べ歩き部会

——3年ぶりに新そば会を開催——

目黒稲門会恒例の新そば会ですが、コロナのため休止を余儀なくされていましたが、3年ぶりに再開することができました。

感染防止対策のため1回の上限を8名として、10月31日(月)、11月4日(金)、11月8日(火)の3回開催し、計24名が参加しました。

今年の新そばは北海道産です。前菜4点盛り(板わさ、鶏、玉子焼き、おひたし)に始まり、豪華な鴨焼き、松茸入り(牡蠣)茶碗蒸し、そば寿司と続き、小海老と三つ葉のかき揚げに2種類の盛りそばでした。希望者にはさらに太打ちそばが出されました。

おいしいそばとお酒でおおいに盛り上がった新そば会でした。



第1回新そば会 10月31日

食べ歩き部会長 猪名川一雄

早稲田スポーツ観戦部会

11月6日、六大学野球秋季リーグ戦早慶二回戦を12名の会員と応援観戦しました。本早慶戦に2勝すると明大が優勝、早大は2位に浮上する大事な試合でした。一回戦は、9回表に慶大に4対3と逆転されましたが、同裏に二死満塁で松本左翼手(4年)が右翼に適打し、二者が生還、5対4で勝利しました。

二回戦は、印出捕手(2年)の1回表の満塁本塁打を含む15安打で9得点をあげ、9回裏には、伊藤樹投手(1年)が高速球で反撃をびしりと押さえて9対6で勝利しました。

こんなに打てる早稲田を見るのは大変久しぶりで、また下級生の活躍が目立ち、今後を期待しながら渋谷で勝利の祝杯をあげました



早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

早稲田大学剣道部

杉村麻記（平成31年 社会学）

剣道の歴史は、日本刀の出現と同時に言われています。平安時代から剣術流派が相次いで成立し、江戸幕府の開府以後、平和な時代が訪れると、剣術は人を殺す技術から武士としての人間形成を目指す修練の道としての「活人剣（かつにんけん）」へと昇華し、戦闘技術だけでなく武士としての生き方や価値観といった心法まで広がりました。これが日本の剣道の始まりです。

私の剣道との出会いは小学2年生でした。兄が地元の警察道場に通っており、そこに見学に行ったことがきっかけです。そこから大学生まで、剣道中心の生活を行ってまいりました。ここまで打ち込めたのは、剣道はただ勝負に勝つことだけではないからです。「礼に始まり礼に終わる」といった言葉があります。これは、武道の中では最も大切なことであり、試合においては作法を守り、また相手への敬意を示すことが何よりも重んじられるべきであるとされています。スポーツでは、試合中に得点を決めた時にガッツポーズをする場面を見ることがよくあると思いますがこの行為は剣道では反則となります。これは、相手に敬意を示すということから反しているからです。こういった深い意味を持って剣を交えることに魅力を感じました。

早稲田大学剣道部は、今年で創部125年となる非常に歴史のある部です。「学生日本一」「早慶戦優勝」を目標に向けて日々稽古に励んでいます。現在の総部員は60名ほどおり男女関係なく剣を交え日々の練習を行っております。高校時代から「日本一」を目指す強豪校からくる人もいれば剣道未経験で入部をする人など様々な方がいます。私が在学中は外国人剣士も3名ほどおり、グローバルに活動しているところも早大剣道部の魅力の一つです。

4年間を振り返ったときに「早稲田に来て良かった」と心の底から思えたことが、私の剣道人生の中で一番誇りに思えることです。剣道には、個人戦と団体戦の二つの試合形式があります。三本勝負が基本で、相手から有効打突を二本先取か、時間内に一方が先取しそのまま時間が終了した場合には、一本先取している方が勝利となります。個人戦では、時間内に勝敗が決しない場合は延長戦を行い、団体戦では引き分けとなります。個人戦では十分に時間を使い一本を取りに行くことができますが、団体戦の場合は時間内に一本を取らなくてはいけないので技の仕掛けを積極的に行い有効打突を狙う機会を増やさなくてはなりません。女子団体戦は、基本的に5人制が多く順番にも役割があります。先鋒（チームの流れを作

る）、次鋒（チームの流れを変化）、中堅（どんな状況でも動じず臨機応変に対応）、副将（どんな状況でも大将に繋ぐ）、大将（チームを勝利に導く）といった大事な役割があります。

大学一年生時には関東女子学生剣道新人大会で優勝することが出来ました。相手は過去何度も日本一になっている強豪の法政大学です。私は先鋒で出場しチームを勢いづけ、尚且つ自分の試合が出来るよう心掛け、結果的に一本先取することが出来、いい流れを作ることが出来ました。チームで勝ち取ったこの時の感動は、大学三年時にインカレの個人戦で三位になった時よりも思い出に残っています。皆でセンターコートに立ったあの時の高揚感は今でも忘れられません。

嬉しいことだけでなく悔しく苦しい事も多々ありましたが、仲間と切磋琢磨し、助け合いながら4年間剣道に捧げて最後までやり遂げることが出来ました。結果的に日本一になることは叶いませんでしたが、伝統ある早慶戦に出場し14連勝に貢献することが出来、最高の仲間達に出会うことが出来ました。今では年に2回は必ず同期で集まり昔話に花を咲かせています。

現在早大剣道部は、男女共に全日本学生剣道優勝大会への出場権を獲得し、4年生は最後の試合に向けて奮闘しています。また、女子早慶戦では18連覇を達成することが出来ました。機会がありましたら是非、17号館2階の剣道場に足を運んでみてください。



関東新人戦優勝



早慶戦優勝

目黒わが町自慢

碑文谷 高橋圭吾（平成元年 理工）

碑文谷。この珍しい地名の起源についてはいろいろな推測がなされていますが、ひとつの説に確定するには、至っていないようです。ただ、応永32年(1425年)の「日運記」の中に碑文谷という地名が著されています。

現在、通説になっているのが碑文谷八幡宮に保存されている「碑文石」にまつわるものです。この石は高さ75cm、幅45cmくらいで、中央に「大目」。左右に「勢至」「観音」の字が刻まれています。「碑文石」説は、村内の鎌倉街道の傍らに梵字を刻んだ碑があったが、崇りのため土中に埋めたと「新編武蔵風土記稿」や「江戸名所図会」に記されていることから言われるようになったそうです。

ところで、私が碑文谷に住んだのは、2001年からです。ロンドン赴任から帰国したときです。このときは碑文谷4丁目のマンションに住みました。その後、自由が丘、八雲に住み、2020年にまた碑文谷5丁目に引っ越してきました。碑文谷公園が近くにあり、学芸大学駅からも近く便利になりました。春になると碑文谷公園の桜がとても綺麗です。また、天気の良い日は碑文谷公園でピクニックもできます。先日、私は、天気が良いので碑文谷公園のベンチで「ほんとうの定年後」という本を読みました。私ももうすぐ定年退職を迎えるので、本屋で買ってみました。内容はとてもおもしろく、「小さな仕事でもいいので、定年後に続けることが日本社会を救う」ということが書いてありました。少子高齢化が進む日本では、定年後にもできる仕事をこつこつやることで、就労人口が維持でき、日本経済のためになるのだと。「なるほど」と思い、おそらく目黒稲門会の先輩方々からも色々とお話を聞くこともできるかな、とも考えました。

最近、近所に坊主食堂という居酒屋が出来て、オーナーの角田さんに碑文谷の話を伺いました。角田家は代々碑文谷の地主だったそうです。イオンの近くに角田家長屋門があると教えてもらい、早速行ってきました。なかなか立派な門でした。



目黒の坂巡り

行人坂 泉 実紀子（平成3年 文）

「ぎょうにんざか」と読むこの坂は、目黒稲門会の方々にはなじみが深いだろう。総会や新年会で訪れる「目黒雅叙園」に行くときには必ず通る、急勾配の坂である。

坂を下から見ると、目黒川に架かる太鼓橋を渡り、長さ約140mの急坂を登って行く。太鼓橋は、享保(1716-1736)の末、木喰上人が、八丁堀の商人達の援助を受けて完成させたもので、往時の景観は、広重の錦絵などにも残されている。右手に明王院(現目黒雅叙園)、大円寺と続き、坂の上・左手には茶屋があったそうだ。おそらく今の三井住友銀行のあたりかと思われるが、私が子供のころにはこのあたりにケンタッキーフライドチキンがあって、塾通いのひそかな楽しみだったことを個人的には懐かしく思い出す。

行人坂という名前は、寛永(1624-1644)の頃、出羽三山の一つ湯殿山の大海法印という行人(行者)がこの地で修行を始め、次第に多くの行人が集まり住むようになったことが由来だという。

大円寺は、江戸三大火事の一つ、明和9年(1772)の「目黒行人坂の火事」の火元と言われていて、犠牲者供養のために釈迦三尊像及び五百羅漢像約500体が安置されている。

目黒雅叙園は、ご存じのとおり、昭和という時代の象徴ともいえるだろう。昭和6年(1931)に竣工した旧本館は、絢爛たる装飾を施された日本初の結婚式場で「昭和の竜宮城」とも呼ばれ、太宰治の小説『佳日』にも登場する。戦時中は海軍の病院としても使われたらしい。平成3年(1991)に現在の形に大リニューアルするが、所蔵していた数々の美術品は、2014年以降に散逸。ファンに翻弄されながら、なんとか維持しているその存在自体がドラマのようなまさに昭和の遺産である。

歴史的遺産が多く残る行人坂。江戸時代には目黒不動尊や大鳥神社などへの参詣や、目黒の農産物を運ぶ交通の要衝であった。今は権之助坂に取って代わられている向きもあるが、実は『江戸名勝図会』にも載っている目黒屈指の名坂なのである。



江戸名勝図会・行人坂
絵師：広重

会員ギャラリー

『結界』 油彩
澁谷瑠璃



私は 弾語画家 として、ギャラリーでは絵を飾り、ライブハウスでは音を奏でている。

色と音を融合させるべく、この度人生初の CD アルバムを制作、発売した。

ダブルの紙ジャケット仕様になっており、表のジャケットの絵はもちろん私の作品であるが、見開き部分にもこだわりがある。全て手作業にて制作、着色してある。色も黒、紫、灰紫の3色から選ぶことが出来る。"手塗り CD"の為、枚数限定にて発売。

CDなんて売れないと散々言われている今の時代。だからこそ、ただ音を"聴く"為だけではなく、絵を"見る"為の、そして結界を"張る"為の作品を作った。

一家に一枚置いておくと、結界が張れるかもしれません。

『目黒川緑道の青鷺』 写真
吉田博行 (昭和42年 政経)



目黒川の国道246号線(玉川通り)を越えた世田谷寄りには暗渠になっていて、人工のせせらぎが作られている。せせらぎの両岸には四季折々の草花が植えてあり、行き交う人の目を慰めてくれる。またせせらぎには大きな鯉が悠々と泳いでいる。鴨や鷺が餌をついばんでいるのを見かけることもある。散歩がてらで四季折々の花を觀賞し、悠々と泳ぐ鯉や、水鳥を目の前で眺めながら散策をして心身ともに健康の維持増進を図ることを勧めたい。

新入会員

上田 あや (平成17年 法／21年 法研)
(目黒区柿の木坂在住)



子ども2人と主人と一緒に柿の木坂に住んでおります。私の父も商学部卒で2代続けての校友です。どうぞよろしくお願いいたします。

----- 2022稲門祭 -----

久しぶりに秋晴れとなった10月23日(日)、2022稲門祭が3年ぶりに対面で開催されました。

目黒稲門会は大隈庭園の芝生ステージの前列に陣取り、音楽祭を楽しみました。訪れた会員は、16名で、ワクチン未接種および手術後退院直後の会員も一年に一度の母校への巡礼に参加し親睦を深めました。



最後はいつものように高田馬場駅前で2次会。また大いに盛り上がりました。
(金井 記)

お悔やみ申し上げます

※令和3年5月～11月(事後連絡/敬称略)

山木 宏之(昭38商) 令和3年 5月 6日(80歳)
川邊 忠俊(昭31商) 令和3年 8月 23日(91歳)
中村 知明(昭40法) 令和3年 8月 27日(80歳)
横山 仁一(平 4政経) 令和3年 11月 29日(54歳)
※令和4年2月～9月(敬称略)

眞仁田 勉(昭28法) 令和4年 2月 15日(91歳)
奥村 忠夫(昭41政経) 令和4年 2月 26日(79歳)
田島順一郎(昭49政経) 令和4年 3月 11日(73歳)
星野 聰史(昭26理工) 令和4年 3月 28日(93歳)
木村 昭一(昭37商) 令和4年 8月 7日(83歳)
市瀬 達夫(昭34法) 令和4年 9月 23日(87歳)

編集後記

5回目のワクチン接種で中目黒の「めぐろ学校サポートセンター」へ行ってきました。同じ建物の中にある「めぐろ歴史資料センター」を見学してきました。江戸時代の目黒は上目黒、中目黒、下目黒、三田、碑文谷、衾(ふすま)の6つの村で構成されていたそうです。衾以外は現在の町名に残っています。衾は現在の八雲のあたりだったようです。

(猪名川 記)